

RA-15に関する状況

ITU 無線通信総会について

無線通信総会 (RA: Radiocommunication Assembly)

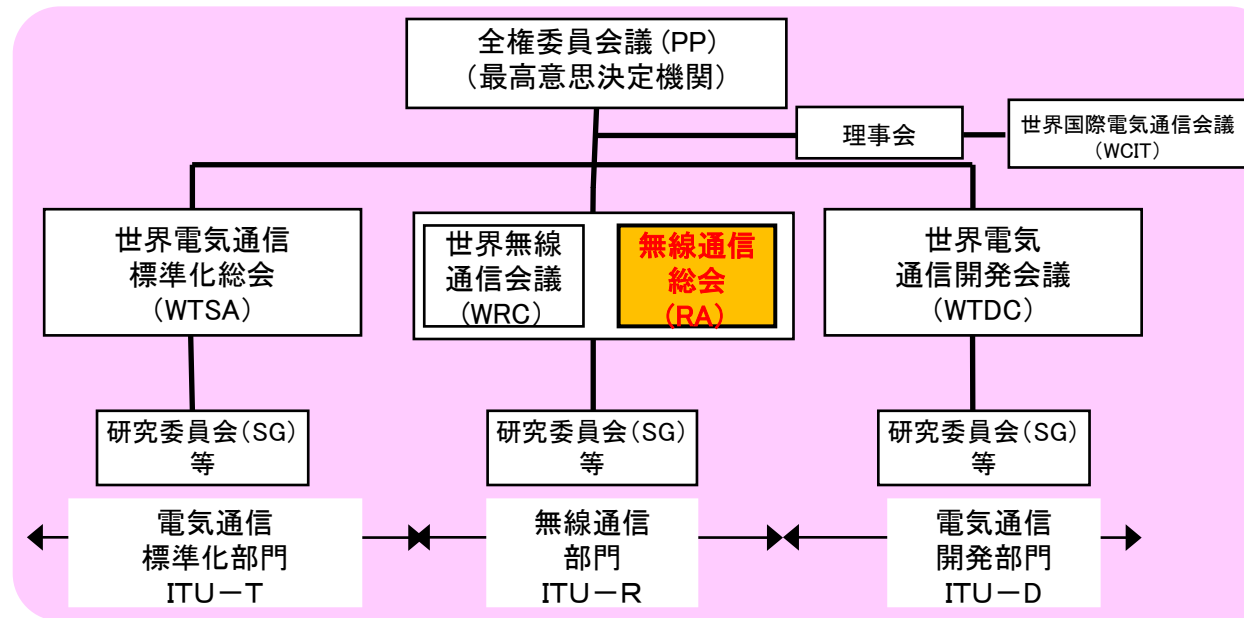
- RA-15開催期間: 2015年10月26日(月)～30日(金)の5日間
- 開催場所: ジュネーブ(スイス)
- ITUで無線通信分野の標準化を行う無線通信部門 (ITU-R) の総会であり、3～4年に1回開催。
- 参加資格は電気通信主管庁 (193加盟国) 及び無線通信部門セクターメンバー (218メンバー)
- 前回総会 (RA-12) は2012年1月16日(月)～20日(金)の5日間、ジュネーブ(スイス)にて開催され、
- 全体で約526名、日本から28名が参加

RA-15の主な任務

- 研究委員会 (SG) 構成の審議
- SG議長・副議長の任命
- 作業方法の見直し
- 研究課題の承認
- 勧告案の承認 等

RA-12の主な結果

- 次期研究会期の研究課題承認: 223件
- 勧告承認: 4件 (新規3件、改訂1件、改訂差戻し1件)
- 第4世代移動通信システム (IMT-Advanced) の詳細無線インターフェースに関する新規勧告
- 「うるう秒」の調整の廃止に関する改訂勧告についてSG7に差戻すとともにWRCの検討課題に



ITU-R 無線通信アドバイザーグループ(RAG)

RAG

RAG(Radiocommunication Advisory Group)は、ITU-Rにおける標準化活動の優先事項、計画、運営、財政及び戦略等を検討する会合。(RAGは審議結果を無線通信局長に提示することとなっている。)

直近のRAG(第22回会合)の概要及び主な結果

日程・場所: 平成27年5月5日(火)～8日(金)(4日間)、スイス・ジュネーブで開催。

参加者: 32カ国、無線通信局(BR)等から約60名が参加。日本からは、総務省、NTTドコモ、NHK、KDDI等から6名が参加

(1) ITU-R2016-2019年運用計画案

【背景】 2014年全権委員会議(韓国・釜山)において承認された2016-2019年ITU戦略計画及び財政計画に沿ってBRによって作成された2016-2019年のITU-R運用計画案が審議された。

【結果】 2016-2019年にITU-Rとして達成すべき目標(MIFRに衛星網の登録を有する国数の増加、地上デジタル放送への完全移行した国の割合等)の設定や目標を達成する際のリスク分析とその軽減策等について審議した上、理事会への提出に合意。なお、運用計画案に記載された目標値の中には、地デジの完全移行のように、各国の事情により左右されるものでITU-Rの活動結果に直接影響を受けないものもある点について指摘。

(2) ITU-R勧告等のデータベース構築

【背景】 2012年のRAG第19回会合において、ITU-R勧告等を周波数や無線業務ごとに検索できるデータベースの構築がBR局長に要請された。我が国は、本活動を支援すべく2014年3月に資金拠出を行うとともに2014年のRAG第21回会合においてデータベース構築する上で考慮すべき機能を提案する寄与文書を入力するなど継続的に活動を支援してきた。

【結果】 BRから現在のデータベースの構築の進捗状況の報告及びデータベースのデモンストレーションを実施。我が国からは、本データベースの更なる利便性向上や将来の拡張性のための取組(標準化された言語の採用等)をBRに要請する寄与文書を入力。RAG議長や各国からは、我が国の継続的な支援に対して謝辞が述べられるとともに、RAGとして、日本提案を踏まえつつ本活動を継続するようBR局長に要請された。

(3) 決議ITU-R 1-6(無線通信総会(RA)、研究委員会(SG)等の作業方法)の改訂

【背景】 2013年のRAG第20回会合以降、SG等の作業方法を規定する決議ITU-R1-6の見直し作業を行ってきており、前回RAG第21回会合ではコレスポンディンググループ(CG)を設置し継続的に検討が行われてきた。主な論点としては、現行決議において明確に規定されていない、勧告以外の文書(レポート、ハンドブック、意見、決定)の採択、改訂、廃止のための手続をどのように整備すべきかなど。

【結果】 例えば、レポートの採択の条件として、反対する加盟国がある場合でもその見解をレポート本文に掲載しコンセンサスをとった上で採択を可能とすることで勧告より緩やかな手続とするなど、ITU-Rの各文書の性質によって適切な承認手続を検討すべきとの議論がされた。今会合中の議論を踏まえ修正されたCGレポートをRAG議長報告に添付した上で、RA-15に向け、各国における更なる内容の精査が要請された。

(4) 決議ITU-R 5-6(各SGの作業プログラム)の改訂

【背景】 前回RAG会合において、韓国より研究課題の有無による研究の区別及び研究課題のない研究の加盟国への周知方法について定めるべきとの決議ITU-R 5-6の改訂提案を提出。本年2月のAPG会合中の意見交換を通じ、我が国が示した改訂案に韓国側が賛同したことから、本会合に対し日韓共同の改訂提案を提出。

【結果】 共同提案では、研究課題のない研究については会期中に終了することを前提とした上で、会期を超える研究については改めてRAにおける採択が必要との旨を規定した決議ITU-R 1を踏まえた改訂を提案したが、両決議の記述の整合をとる必要もあるため、改めてRA-15に対する直接の入力が要請された。

(5) 決議ITU-R 15-5(SG等の議長職及び副議長職の任命及び任期)の改訂

【背景】 SG議長及び副議長の任期及び任命手続は決議ITU-R 15-5に記載されている一方、作業部会(WP)議長の任期及び任命手続は決議に記載されていない。このため、韓国からWP議長の任期をSG議長及び副議長と同様(最大2会期)に限定することを決議ITU-R 15-5で規定すべきとの見解が入力された。

【結果】 韓国の見解に対して、イラン、オーストラリア、ロシア等から、WP議長は専門的知識が求められるため、最適な人材がWP議長を務めるべき、WP議長の任命についてはSGの判断に任せるべきなどの理由により、任期を設けるのは適切ではないとの意見が表明され、支持を集めなかった。

APT WRC準備会合

APT WRC準備会合（APG）

本年11月開催の世界無線通信会議（WRC-15）及び同10月に開催の無線通信総会（RA-15）等に向け、アジア・太平洋各国の見解の調和を図ることを目的に開催。
特にRA-15に向けては、直近の第4回APT WRC準備会合（APG 15-4）よりAPT共同見解等の作成に向けた検討を開始。

直近のAPG 15-4の概要及びRA-15に向けた検討の主な結果

日程・場所： 平成27年2月9日（月）～2月14日（土）（6日間）、タイ・バンコクで開催。

参加者： APT加盟国等から390名程度が参加。日本からは、総務省、通信事業者、メーカー等、48名が参加。

(1) ITU-R決議1-6(RA、SG、RAGのワーキングメソッド)の見直しについて

前回RAG第21回会合により設置された決議1-6の見直しにかかるコレスポন্ディンググループ(CG)のラポーターより決議1-6改訂に向けたCGにおける検討状況の説明があり、議長より、APT加盟国に対し、本件の検討及びCGへの寄与文書の入力が必要とされた。

(2) ITU-R決議2-6(CPM(WRC準備会合)のワーキングメソッド等)の見直しについて

議長より、WRC議題について、メソッド(議題への対応案)が二つ以上存在する場合に、メソッドごとの利点と不利益の記載はそれぞれ原則最大3つまでとする規定について削除を行う決議見直し案の提示があり、参加者からは賛否の意見が示された。議長より、APT加盟国に対し、APG15-5に向けた検討及び見解の入力が要請された。

(3) ITU全権会議(PP-14)のITU-R関連アウトプットについて

議長より、ITU-PP決議166(SG等の副議長職の数)において、SG等の副議長職の職責の明確化等を図る改訂が行われており、それに伴いITU-R決議15(SG議長、副議長の任命と最長任命期間)の改訂の必要があること等の説明があり、APT加盟国に対し、APT15-5に向けた検討の実施及び見解の入力が要請された。

今後の予定

7月27日～8月1日： 第5回APT WRC準備会合（APG15-5） 韓国・ソウル

參考資料

無線通信部門における今期研究会期(2012 - 2015)の研究体制

全権委員会議PP
最高意思決定機関

(4年毎に開催)

無線通信総会 RA
研究課題設定、勧告の承認等

(3~4年毎に開催)

無線通信部門 (ITU-R)

**世界無線通信会議
WRC**

無線通信規則の改正等

**地域無線通信会議
RRC**

地域における無線通信に関する協定等の協議

会議準備会合

CPM

WRCの準備

研究体制

研究委員会 (SG)

SG1

周波数管理

議長: パスツーク(ロシア)

効率的な周波数管理の原則及び技術の開発、分配基準・方法、周波数監視技術、周波数利用の長期戦略等に関する研究

SG3

電波伝搬

議長: アルペッサー=ラッツブルグ(ESA)

無線通信システムの向上を目的とした、電離媒質及び非電離媒質中における電波伝搬並びに電波雑音特性に関する研究

SG4

衛星業務

議長: ホッファー(米国)

副議長: 河合 宣行氏(KDDI)

衛星業務に関する軌道/スペクトラムの有効活用、システム等に関する研究

SG5

地上業務

議長: 橋本 明氏(NTTドコモ)

移動業務、無線測位業務、アマチュア業務及び関連するシステムとネットワークに関する研究

SG6

放送業務

議長: ドッシュ(ドイツ)

副議長: 西田 幸博氏(NHK) (WP6B議長も兼務)

一般大衆に向けて配信することを目的とし、映像、音声、マルチメディア及びデータサービスを含む無線通信による放送(地上系)に関する研究

SG7

科学業務

議長: ミーンズ(フランス)

時刻信号及び標準周波数報時、宇宙無線システム、地球探査衛星システム及び気象に関する事項、電波天文業務等に関する研究

RAG

無線通信アドバイザリグループ

議長: オバマ(ケニア)

ITU-Rの作業の優先順位及び戦略等の見直し、作業計画の進捗状況の評価

※ 下線は2期目

ITU-R SG等における日本からの役職者等一覧(2015年5月現在)

	SG議長／副議長	WP等議長／副議長	ラポータ
SG1 周波数管理	—	—	WP1A: 久保田 文人(TELEC)
SG3 電波伝搬	—	—	WP3K: 表 英毅(ソフトバンクモバイル) 北 直樹(NTT) 山田 渉(NTT)
SG4 衛星業務	副議長: 河合 宣行 (KDDI)	—	—
SG5 移動業務、固定業務、無線測位業務、アマチュア業務及びアマチュア衛星業務	議長: 橋本 明 (NTTドコモ)	—	WP5A: 吉野 仁(ソフトバンクモバイル) WP5D: 石田 良英(ARIB)
SG6 放送業務	副議長: 西田 幸博 (NHK)	WP6B議長: 西田 幸博 (NHK) WP6B副議長: 平川 秀治 (東芝)	WP6B: 武智 秀(NHK) WP6C: 菅原 正幸(NHK)
SG7 科学業務	—	—	—
RAG	—	—	—

SG (Study Group:研究委員会)
RAG (Radiocommunication Advisory Group:無線通信アドバイザーグループ)
WP (Working Party:作業部会)